



いな もり あや か
稲守 礼香 さん

資格取得で再就職に挑戦——

稲守さんは2011年7月に福島県郡山市から札幌市へ、3人のお子

さんと避難してきました。

「震災当時、三男は6ヶ月で母乳で育てていました。色々な情報が飛び交う中、同じ福島県内に住むお母さんの母乳から放射性物質が検出されたと聞き、泣く泣く母乳をやめてミルクに切り替えました。水は全てペットボトル入り、食材は産地を選んで購入、極力外出を控える、など幼い子どもにはどんな影響が出るかもわからないので、なるべく家の中に取り込まないように対策をとりました。スーパーを何件もまわって、結局買ったものは北海道産のじゃがいもだけという日もありました。精神的にも肉体的にも、とっても疲れました。

主人から避難した方が良いのではないかと話が出され、相談の結果、避難先が見つかり次第避難しようと決めました。受け入れ先の情報はネットで探しました。そこで、北海道の受け入れを知ったんです。本州にも候補地を見つけたのですが、下見に行ったところ『ここでは就職が難しいかもしれない』と感じて札幌に決めました。

主人は会社を辞めるまで少し期間が必要でしたので、とりあえず、7月に私と子ども

たち、翌月の8月に主人も、という形で避難しました。」

震災前は出産により仕事を辞めたりついたりしていたという稲守さんは、避難当時は主婦でした。

「札幌に来てからは、子どもも小さかったし、主人の仕事が波に乗るまでは…と、貯金を切り崩しながら生活していました。避難してから4年目を迎え、子どもたちも成長し、貯金も底をついてきたので、そろそろ再就職しようかと思い、ハローワークに行ってみました。しかし、特に就職に有利な資格も持っていないので、なかなか条件に合うものが見つかりませんでした。そんな中、ハローワークの求職者支援訓練認定コースの医療事務の訓練を知り、資格を持っていた方がより良い条件で転職できるかと思ひ



6ヶ月だった末っ子も年少に。小学3年生、1年生と男の子3人、やんちゃ盛りです。

募してみました。医療事務だと過去にサービス業と事務職についたことも活かせるかな、と思いました。」

訓練受講に向けて面接、適性検査を受けた稲守さんでしたが、残念ながら外れてしまったそうです。

「今度こそ、と思って次は服装も言葉づかいも、一回目よりさらに注意して面接に臨みました。その甲斐あってかはわかりませんが、2014年6月～9月の訓練を受けることができました。訓練には様々な年齢の方が受講されていて、毎回応募者数が定員より多いようです。

講習はわかりやすいのですが、固くなった頭に詰め込んでいくのは想像以上に大変でした(笑)。高校受験より必死だったかもしれない。

この訓練のおかげで医療事務、調剤薬局事務、そして医事オペレータの資格を取得することができました。」

稲守さんは早速、資格を活かして職に就こうと就職活動に入ったところでした。

「資格を取ったからすぐに就職できるかと言えば、やはり、経験者優遇が多いのが現状ですし、通勤距離などの条件を選んでいるとなかなか難しいところもあります。

就活は『自分の売り込み』だと思うので、履歴書、職務経歴書や面接でどれだけ意気込みなどをアピールできるか工夫しながら

ら臨もうと思っています。これから数ヶ月の間は、できればフルタイムの正式採用で探したいです。主人が自営業なので、社会保険や厚生年金といったものがしっかりついていての方が安心かな、というのがあります。数ヶ月がんばってもうまくいかない場合は、派遣やパートで『医療事務』としての経験を積めるよう、とにかく職に就いて、次のステップへと活かしていきたいですね。」

お子さんを通して地域の方とのつながりも広がってきたそうです。

「子どもの学校や幼稚園を通してのいわゆる『ママ友』も増えて、地域でのコミュニケーションを楽しめるようになりました。

私は、『福島県から原発事故が原因で避難してきたこと』を知ってもらいたくて、自分から話すようにしています。私たち家族が何が原因で、どういう気持ちで避難してきたのかを伝えることって大切だと思うのです。大きなことはできませんが、未来の子どもたちが笑顔で過ごせるように、自分たちでできることを地道に続けていきたいな、と思っています。

それにはやはり、自分の生活基盤がしっかりしていないと…。早く資格を活かして仕事に就きたいですね。」

資格試験の合格を嬉しそうに報告してくれた稲守さんは、資格取得が自信となり、さらに輝いているようでした。